

学校の教育活動についてのアンケート調査結果について

1 調査に関して

- 実施時期 令和7年1月中旬
- 調査1 全家庭対象 回答率 92.7%
調査方法 本校の教育に関する質問調査（15項目 4段階評価）及び自由記述
- 調査2 全児童対象 回答率 90.6%
調査方法 児童の意識に関する質問調査（16項目 4段階評価）及び自由記述

2 質問調査の結果 は向上が見られた項目（令和5年度との比較）

	調 査 項 目	R5 児童	R6 児童	R5 保護者	R6 保護者
1	子どもは楽しく学校に通っている	3.60	3.56	3.64	3.58
2	子どもは授業が分かっている	3.42	3.36	3.12	3.02
3	子どもは楽しく読書をしている	3.05	2.93	2.32	2.25
4	子どもは家で学習する習慣が身に付いている	3.17	2.98	2.70	2.59
5	子どもは進んで運動している	3.34	3.27	2.84	2.90
6	子どもは履物をそろえている	3.42	3.38	2.53	2.54
7	子どもは早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている	3.44	3.50	3.06	3.03
8	子どもは気持ちの良い挨拶をしている	3.11	3.09	2.93	2.85
9	平日のメディアの使用時間は90分以内である	2.89	2.81	2.40	2.55
10	子どもはいじめをせずに友達と仲良くしている	3.76	3.75	3.76	3.73
11	子どもは自分の良さや成長を感じている	3.15	3.21	3.23	3.12
12	学校は基礎的な学力が身に付くように取り組んでいる	3.54	3.56	3.39	3.35
13	学校はいじめのない学校づくりに取り組んでいる	3.60	3.46	3.40	3.31
14	学校は家庭への積極的な情報提供を行っている			3.50	3.50
15	学校は一人一人の子どもを大切にされた教育を行っている	3.39	3.34	3.34	3.37

※ 評価値

4段階評価の「よくあてはまる」を4ポイント、「だいたいあてはまる」を3ポイント、「あまりあてはまらない」を2ポイント、「あてはまらない」を1ポイントで集計した平均値

※ 児童調査

保護者対象の調査項目と同様の質問について児童自身の立場で回答する。

(例) 【保護者対象の調査項目】 子どもは、楽しく学校に通っている。

【児童対象の調査項目】 学校に来ることは楽しい。

3 主な自由記述

[学校の指導方針について]

- 金一っ子サポーターさんとの交流やきらきらコーナーは続けてほしい。
- スマイル班活動は、異学年の児童と関わることができるので続けてほしい。
- tetoru での欠席連絡や学校便り等の配布が便利で良かった。

- 3学期のスタートが早めの下校時刻であったため、学校生活のリズムに徐々に慣れることができた。
- 個々に応じて丁寧に関るとともに、教員間で情報を共有し適切に対応してほしい。
- 昨年度に比べて小テストを持って帰る枚数が減った。子どもの学習内容が定着していないように思うので、小テストを増やせないか。

[行事関係について]

- 金一ナイト等のイベントが楽しかった。
- 運動会の工夫がほしい。1, 2年生の競技に差がない。競技を増やしてほしい。お昼を挟めないのであれば、1時間程増やして、昼食なしで行えばいいのでは。高学年は復活しても良い競技があると思う。
- 金一にコスモステレビが来ないのはなぜか。

[教師の指導について]

- 子どもたちに多様性について話してくれていて、有難かった。子どもたちの自信につながると思う。先生の学級経営方針を聞いてみたい。
- 子どもの個性を尊重し、一人一人が前進できるように丁寧に関わってくれて有難い。
- 子どもとの会話から、先生と良い関係を築けていることが分かる。そのおかげで、学校生活でいろいろなことにチャレンジできている。
- 家庭と学校の連携が大切。こまめに連絡をもらえて有難い。
- 困り事への対応、友達との関わり方をしっかり指導してもらい、より良い学校生活が送れるように、子ども同士の人間関係について、もっと把握してほしい。
- 子どもたちが理解できるように授業を進めてほしい。子どもたちの質問に丁寧に答えてほしい。

4 考察

(1) 成果

- 「早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている」に関する評価の児童の評価が高くなっている。週に1回行う「清潔検査」で自分自身の生活を振り返り、児童自身が「早寝・早起き・朝ごはん」を意識して生活することができるようになってきたと考えられる。
- 「自分の良さや成長を感じている」に関する児童の評価が向上した。学級の友達と、互いの良さや頑張りを伝え合う「きらきらカード」や「きらきら発表」、異学年での交流活動である「スマイル班活動」、金一っ子サポーターとの交流、いろいろな人との関りが、児童の自己有用感や自己肯定感を高めたと考えられる。今後は、これらの活動をより一層充実させ、児童主体の活動を推進することで、自分に自信を持って行動できる児童を育てる。
- 「平日のメディアの使用時間は90分以内である」の評価値が、保護者で高くなっている。「元気きらきらカード」の取組みや、適切なデジタルシティズンシップ教育の成果が表れ、児童がメディアコントロール力を身に付けることができてきたと言

える。

(2) 課題

- 「授業が分かっている」の評価値が、特に保護者で低くなっている。「家で学習する習慣が身に付いている」の評価値も児童・保護者ともに低くなっており、学校・家庭どちらの学習についても見直す必要がある。学校ではICTを効果的に活用し、「分かる授業」「楽しい授業」を目指して授業改善をするとともに、「小テスト」や「漢字はかせ」などの学習活動に丁寧に取り組むことで、基礎的・基本的な学力の定着を図りたい。また、家庭での良い学習習慣が身に付くように、学校から情報発信をしたり、定期的に家庭学習を振り返る機会を設けたりする必要がある。
- 「いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の評価値が、児童・保護者ともに低くなり、それとともに「いじめをせずに友達と仲良くしている」の評価値も下がっている。学校は児童の人間関係をしっかり把握し、教員間で共通理解を図る必要がある。複数体制で対応し、学校全体の問題として解決していく。また、子どもたちとの日頃の会話や、「心のお天気しらべ」などから、児童の実態を正しく把握し、気持ちに寄り添った指導や支援をしていく。

5 改善事項

[授業改善について]

一人一人に寄り添った支援や指導、保護者の方との連携を全教職員で心掛け、児童自身が「分かった・できた」と実感できる授業づくりを目指していきます。学習の進捗や児童の実態に応じて作成した小テストを活用し適切に復習を行ったり、漢字はかせを全校で統一した日程の基行ったりすることで、基礎的・基本的な学力の定着に努めます。

今後も教職員の研修の時間を充実させ、自分の考えをしっかりと表現したり、友達の意見を聞いたりするなどの意見交流を通して、理解が深まるような授業改善に努めます。

[いじめのない学校づくりについて]

学校で行っている「心のお天気しらべ」の質問項目を増やし、つらい思いをしている児童、いじめられている児童の早期発見、早期解決に努めます。児童の人間関係を学校生活の様々な場面でしっかり把握し、全教職員で共通理解を図り、複数体制で対応するなど、学校全体の問題として解決していきます。また、異年齢集団のスマイル班活動の活性化や金一っ子サポーターとの交流活動もさらに充実させ、互いに心が通じ合う楽しい学校生活が送れるようにしていきます。「きらきらカード」や「きらきら発表」も学級、学年、全校、地域等、幅広い取組を目指し、一人一人の自己有用感や自己肯定感を向上させる手立てとしていきます。

[基本的な生活習慣の育成について]

学童期に家庭学習の習慣を身に付けることはとても大切です。学校では、今後も学年+10分を目安とした宿題の提示、自主学習の奨励等に取り組み、児童の意欲化を図っていきます。

また、読書活動の推進や体力向上につながる取組の継続など、読書や運動の習慣化につながる楽しい機会を設定していきます。メディア使用の影響も大きいため、家庭との連携を図り、家庭での過ごし方として読書や運動の奨励を行い、家庭との連携強化に努めます。毎月11（いい）日を「金一いい挨拶の日」としています。気持ちの良い挨拶が校内だけでなく、地域にも広がるよう指導を続けます。

[情報の発信について]

コミュニティ・スクール3年目となり、さらに金一っ子サポーターにご協力いただき、充実した学校生活を送っています。今後も学校・家庭・地域がしっかりと連携しながら、児童の健全な育成を図っていく必要があります。児童の様子を通じて学校の取組にご理解いただけるよう、tetoruでの学校・学年便りやホームページ等を通じた情報発信に努めていきます。なお、ホームページ（ブログ）の写真につきましては、個人の紹介をすることを目的としたものではなく、全校や学年の子どもたちの様子が伝わるものを掲載しています。ご家庭でも、「学校生活について」話題にしていただけると有難いです。